

「藤沢の遊行寺(4)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

山本周五郎の短編「遊行寺の浅」では、年に一度の寺宝の虫干しの時、その宝物の一つの「純金の香炉」が盗賊に盗まれるという場面があります。遊行寺の浅こと「いたわりの浅」は、もと国定忠治の子分の一人で、その盗賊の兄貴分にあたります。純金の香炉は、もともと檀家が寄進したものでしたが、飢饉の折に住職が売って民に施しを与えたため、金かぶせ(金メッキ)の偽物だったのです。浅は機転をきかせて、盗賊からとりかえした香炉を寺の裏山に埋めて、偽物であることが発覚するのを防ぐ、というストーリーです。



寺の宝物館には、残念ながらその香炉はありませんでした。また浅の墓所も山内にあると小説には書かれていますが、見つかりませんでした。



墓所の近くには「紫陽花の小道」があります。こういう道は鎌倉でもあまり見られません。



浅が香炉を埋めたとされる裏山には、山を覆いつくすほどの紫陽花が咲いていました。



紫陽花山の手前の池には「花菖蒲」が満開でした。遊行寺は四季の花が美しいことでも有名です。



ザクロも咲いていました。ザクロの樹は寺の庭に似合うと思います。

香炉を埋めた浅は「いつか香炉は江ノ島の沖にでも沈むだろう」と言い残します。数百年の間に境川を下って、江ノ島沖に沈んでしまったのでしょうか。